



昨年度開かれた第1回大会開会式の様子

大分県の特別支援学校では6年前、余暇支援・生涯スポーツの一環として全17校（分校2校）中7校に陸上競技を中心とした運動部が発足されました。

また、2020年の東京パラリンピックに向け、スポーツに対する興味・関心は年々高まっています。そのような中、昨年、県立大分支援学校を事務局校として、県内の特別支援学校高等部の生徒が日頃の体育の学習や部活動の成果を発揮するとともに、学校間の交流ならびにスポーツを楽しむことを目的とした「大分県特別支援学校高等部スポーツ大会」が開催されました。

## 高等部が一堂に会し体育、部活動の成果披露

記念すべき第1回大会は、昨年10月10日に大分銀行ドームという大きな会場を借り切り開催されました。本年度も、各学校の校長や実行委員が中心となり、第2回大会（10月7日、同会場）開催に向け準備に取り掛かっているところです。第1回大会の参加者は164人。本年度は246人となり、県内の高校、大学のボランティアや一般の応援者などを含めると約400人に上り、昨年以上の盛り上がりを見せています。特に今年は、大会旗のデザインを全県立学校から公募し、6人の入賞者を表彰しました。

現在の特別支援学校高等部スポーツ大会は、陸上やボッチャ、フライングディスクなどの競技に限られています。将来的には特別支援学校の小学部から高等部までの数多くの児童・生徒がそれぞれの実態に応じて、参加できるスポーツ大会となることが望まれます。今後も息の長い大会であってほしいと願うばかりです。

（田中淳子・大分県特別支援学校校長会長、大分県特別支援学校高等部スポーツ大会実行委員長）